

第 41 回(令和 5 年度 第 3 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 6 年 2 月 7 日 (水) 14 : 00 ~
- 場 所 黒部市役所 201・202 会議室
- 出席者 協議会委員 19 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
		富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	黒部市タクシー協会 会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式 会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	本人出席	
		関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所 長	川口 歳則	所長代理 岩井光彦
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	藤井 敏雅	本人出席	
	地域公共交通の 利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議 会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協 議会 会長	藤澤 義信	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部ま ちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリー ダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会 長	此川 昇	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会 長	辻 順子	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環 境学科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部 交通企画課長	新倉 孝礼	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画 課長	大田 尊博	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支 局 首席運輸企画専門官	景山 隼人	本人出席	
		富山県交通政策局交通戦略 企画課長	有田 翔伍	主幹 霜鳥裕一郎	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長
一般社団法人黒部・宇奈月 温泉観光局 代表理事		川端 康夫	チーフマネ ージャー 高橋昌美		
Y K K 株式会社 副社長 黒 部事業所長		浅野 慎一	企画推進 グループ長 岡智和		
富山県交通運輸産業労働組 合協議会議長	石橋 剛	欠席			
宇奈月商工振興会長	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、川見課長、山崎班長、中係長、藤井主査、田村主任
NiX JAPAN(株)：馬場、寺田

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 暮らしのサポート便実証運行事業の実施状況について・・・・・・・・資料 2
- 4 協議事項
 - (1) 南北循環線・新幹線生地線の運行ルート等の一部変更について・・・・資料 3
 - (2) 黒部市地域公共交通計画（素案）について・・・・・・・・資料 4
- 5 その他
- 6 閉 会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：川見課長

あいさつ（武隈市長）

- 会長よりあいさつを行った。

本日は、第 41 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位におかれましては、ご多用の中ご出席いただき、また日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

まずは、元旦に発生した、令和六年能登半島地震により犠牲になられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様のお見舞いを申し上げます。被災地の 1 日も早い復旧、復興が叶うよう、我々としても支援できることは支援していきたいと思う。また、鉄道事業者の皆様においては、新年から大変な状況であったと思うが、復旧にご尽力いただいたことを改めて感謝申し上げます。さて、黒部市の状況だが、地震の被害は、ほかの市町村に比べると比較的少なかったかと思う。そうした中で黒部市として、ほかの市町村の支援をしようということで、現在、まず初めに宇奈月温泉に泊まっておいただき、希望した方には、その後市営住宅に入居していただくというパッケージでの被災者支援ということを実施している。引き続き、能登半島の皆さんのために、何かお役にできることをやっていきたい。

一方、懸念される場所として、黒部峡谷鉄道に落石があったと考えられ、その被害については、今後雪が溶けてから状況を詳しく調べることとなっており、回復まで時間がかかると思われている。今年は 6 月 30 日に黒部宇奈月キャニオンルートの一般開放が始まると

いう中での被災であり、注視していかなければいけないと考えている。

話は変わるが、3月16日は北陸新幹線の金沢-敦賀間の開業ということで、同日は市民団体であるにかわプロモーションオーガニゼーションによる、黒部宇奈月温泉駅でのイベント、それから、第35回黒部ワンコイン・フリーきっぷ「楽駅停車の旅」の出発式も予定されていると伺っており、本当にありがたいことだと思う。関係機関との連携、それから、ほかの駅の皆さんとも連携して黒部宇奈月温泉駅の利用促進につなげていきたいと思う。

本日の協議事項である、黒部市地域公共交通計画の素案については、前回の協議会や作業部会での議論を取りまとめたものとなっている。本計画の「出かけてたのしいまちを育み地域が一体となってまもり育てる 未来へつながる公共交通」について忌憚のないご意見を頂くようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひしたい。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 暮らしのサポート便実証運行事業の実施状況について

●事務局より、資料1、2に基づき報告を行った。

○川端座長

今の報告をお聞きになり、ご意見や質問をいただければと思う。

第2回作業部会では、暮らしのサポート便実証運行事業は無償でなく、有償で行うべきではないかという議論があったが、その部分についてもご意見等をいただければと思う。

特に意見がなければ本件について承認いただきたいと思うがいかがか。

●一同異議なし

協議事項

- (1) 南北循環線・新幹線生地線の運行ルート等の一部変更について

●事務局より、資料3に基づき説明を行った。

○川端座長

本議案について、ご意見や質問をいただければと思う。

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案(1)については原案のとおり承認とする。

- (2) 黒部市地域公共交通計画(素案)について

●事務局より、資料 4 に基づき説明を行った。

○下石委員

P87 事業②-3「中心市街地におけるよりきめ細かな移動手段の創出」で「電動小型カートを導入することを進める。」となっているが、令和 5 年 10 月に「あおーよ」が開館する際に、なぜ同時に導入することができなかつたのか。タクシー事業者が小型電動カートを導入することを反対していると聞いたが、これが事実なら問題である。もし、タクシー事業における損益にかかわるのであれば、具体的な数字を根拠として示してもらい、市で対応を考えてほしい。

金銭面の関係から、タクシーを利用できる人と、利用できない人がいる。そのため、市民は電動カートやデマンド交通の導入を望んでいる。

○事務局

タクシー事業者は決して電動カートの導入を反対している訳ではなく、市と話を進めているところである。

市としても、事業者の損益の部分も含め、少しでも早く電動カートを導入できるようタクシー事業者と協議を進めていく。

○此川委員

基本方針④みんなにやさしい公共交通 基本施策(8) 分かりやすく運行情報を伝えるとあるが、2023 年の公共交通マップには始発・終着地点の記載、また、バス停名の記載がなく分かりにくい、どのように分かりやすくしていくのか。バス停名、始発・終着地点、地名等を記載されていると分かりやすい。

○事務局

2023 年公共交通マップには時刻等は記載していないが、路線ごとの時刻表にはバス停名を記載し対応している。

ご指摘の通り、市全体のマップにもバス停名は記載した方が分かりやすいため、バス停名は記載する方向で進めていく。しかし、情報を盛り込み過ぎると分かりづらくなることもあるため、内部で公共交通マップに記載する内容を協議する。

また情報発信においては、ホームページだけでなく、自治振興会、老人クラブ連合会とも連携を図っていく。

○下石委員

P48 上段 「公共交通のサービスの維持のため、地域や個人での取組についての考え方」についてだが、公共交通サービス維持の問題は、行政だけの責任ではなく、市民の自覚の無さが問題であると思う。

普段、公共交通を利用しないが、公共交通がなくなると困るというのが一般市民の感覚である。そのため、公共交通を利用しなければ、なくなるという意識をもってもらおう、広

報活動を強化してほしい。市民全員が 1 年に 1 回でも乗れば、いくら赤字が解消されるという具体的な数字を示した広報を行えば、分かりやすく、利用する意識をもってもらえるのではないかと。

○事務局

非常に大事なご意見である。ご指摘の通り、市民全員が 1 年に 1 回ずつでも公共交通を利用すると、収支状況が非常に良くなる。現在、年に 1 度だけ、時刻表の配布を行っているが、今後は加えて地区等でのバス利用の啓発、利用してもらうことでの収支の改善状況等を訴えていけるよう進めていく。

○原田委員

地域公共交通計画の素案ということで、前の計画との違いが、1 つのポイントと思う。第 2 次網形成計画（以下、前計画）には体系が 6 つ、目標が 5 つ、事業が 32 あり、今回は基本理念が掲げられ、基本方針があり、目標が 6 つ、事業が 27 となり計画の作り方としては、ワンステップアップしたと思う。それに応じて新しい内容、目玉である内容だという説明がない。鉄道の利用はどの事業を組み合わせると増える、中心市街地の活性化はどの事業によって効果があるという説明、ストーリーがあると、市民がその事業を頑張ろうという気になると思う。

また、77 ページに事業について書いてあるが、おそらく前計画で取り組んでいた事業は基本的には継続し、「検討」と書いてある事業を新しく取り入れて頑張っていこうという事業だと思うがその認識でよいか。

○事務局

言われる通りである。内容的には現在の事業を継続し実施するものとしている。しかし問題点もあり、そのようなものを検討し、少しずつ改善していきたい。

○原田委員

例えば、初めにライフスタイルの変化という説明があり、それに伴い交通事業者の経営が厳しくなっているため、それに対応するための事業を並べ、東として取り組み、公共交通事業の経営状況をよくするという見え方があると良い。

次に目標設定についてである。

目標指標 1 の「市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数」は前計画では 5 年間で 5 % 増加、本計画では 43% 増加であり、「市内鉄道の利用者数」は前計画では 5 % 増加、本計画では 24% 増加となっている。これについては、本計画で設定の考え方がなく、立地適正化計画での目標設定を使用しているとあるが、この目標設定はあまりにも難しく、違うのではないかと。

目標指標 2 の「市内路線バス・コミュニティ交通の利用者一人当たりの財政負担額」の現状値と目標値が同じであり、これは頑張って維持していこうということであると思うが、財政負担額が増加している経緯の記載がないため、目標値が非常に高い数値であるという印象を与えないと思う。

次に、中心市街地へのアクセスを便利にし、電動カートを導入して中心市街地の活性化に注力するにもかかわらず、目標指標3の「中心市街地バス停利用者数」の目標値が5%増加で、「市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数」の目標値が43%増加というのは目標値設定の調整が必要であると思う。

目標指標4の「黒部宇奈月温泉駅乗車人数」は75%増加となっているが、この目標値は黒部宇奈月キャニオンルート的一般開放があり、総合振興計画の目標設定の考え方があるためとの認識である。

目標指標5の「スポンサー、サポーター制度の立上げ、参加者数」は現在未導入に対して導入するということで良いと思う。

目標指標6の「公共交通で行こう」ホームページアクセス数の23%増加は、交通情報ということでアクセス数が急増することもあり、問題ないかと思う。

以上が特に本計画において特に気になった部分である。

○川端座長

目標値の設定については、上位計画の目標数値をそのまま公共交通計画に採用するのは難しいのではないかと、作業部会でも意見があった。

○原田委員

上位計画では人口、世帯数、経済、生産量が関係するため、このような目標設定ができる。若しくは、上位計画の数値がそれだけ高い数値だということ認識して、本計画の目標値として使用するかである。

○事務局

ごもっともなご意見である。ほかの計画も関係してくることになるため、今一度内部で整理させていただく。

○武隈会長

もう一度精査する。総合振興計画では詰めた議論で目標設定している訳ではないため、整合性の取れた目標値をもう一度整理する。

○川端座長

続いて、交通事業者の皆さんお願いします。

○新庄委員

この計画の中に交通事業者は相当厳しい経営状況であり支える話も出ており、全くその通りとの思いであり、行政の皆さんと共に連携していろいろ交通事業者として実施している。

先程、下石委員からも意見があったが、1人でも多くの人に利用してもらうことが経営の安定化には最も大事なことであると改めて思った。

富山地方鉄道の鉄道線の定期利用者を除く、運賃を支払って乗車する方（以下、定期外利用者）の1回利用の平均支払額は470円であり、バスにおいては270円である。そのため、

鉄道線を利用し出かけるとすると 1 人 1 回当たり往復で 940 円の支払があり、かなりの収入となる。

実際、電鉄黒部駅～宇奈月温泉駅間の黒部市内の鉄道事業は 2 億 5,000 万円の赤字である。仮に黒部市が 5 万人の人口であるなら、1 人 5,000 円鉄道で使っていただくと黒部市の赤字は解消できる。これは先程の平均支払額を使って単純計算すると、1 人当たり年間 5 回鉄道を利用して出かけてもらえば赤字が解消できるということである。このようなイメージとして市民の方に情報共有していただけると、分かりやすいと感じた。

○助野委員

あいの風とやま鉄道は 7 割が定期利用者である。新型コロナウイルスの影響で定期外の利用者が減少したが、現在徐々に回復している。やはり、定期外利用者の単価が高いことから、県外の方も含め、定期外利用者にも利用してもらうために周知していくことが大事だと思う。沿線の市町からの意見をいただきながら、どのように鉄道利用を促していくかを繰り返し検討したい。

また、情報発信も必要ということで、SNS を通じイベント企画の情報発信、観光列車の情報、列車の遅延情報等を随時発信していくことに取り組みたい。

○神谷委員

先程、下石委員からお話があったが、タクシー事業者は、電動カート等の導入に反対していることは全くないと思ってほしい。市と協議しながら進めていきたい。

交通空白地をなくそうということ、ドライバーを確保することにおいても、市の協力をいただいている。黒部市が盛り上がり、まちなかに人が集まると、タクシーの利用者が増加するため、今後とも協力していきたい。

○影山委員

先ほど原田先生のお話にもあったが、本計画の P77 を見て、「実施」と「検討」はどのようなことなのかと思っており、恐らく、現在実行していることが「実施」、結果に結びついてないため、更により良いことをするということが「検討」という部分だと思う。

例えば、事業①-5 のような実施主体が黒部市と交通事業者である際は、さらに 1 つ他分野の企業等を入れて実証運行に取り組んでもらえると、運輸局が支援している共創プロジェクトを活用でき、実証運行経費を補助することができるため、そのようなことも検討していただくと、お役に立てると思う。

○有田委員（代理：霜鳥主幹）

現在、富山県でも交通戦略を作成中であり、地域の活力や魅力向上に向けて役割分担と責任分担を検討してきたが、地域公共交通サービスは、地域の活力、魅力に直結する公共サービスであると明言し、自らの地域をより良くするためには、必要なサービスの確保向上について、自治体や県民の役割をこれまでの単なる利用者や、支援者ではなく、投資・参画というものへ舵を切ると、明言している。そのような県の計画の理念を、黒部市の地域公共交通計画でも汲み取っていただき、調整していただき大変ありがたく思っている。引き続き、黒

部市と歩調を合わせて計画を作りたいと思う。

○下石委員

P76「みんなで支え合う公共交通」というところで、③-4「企業・店舗等との共創の促進」とあるが、70歳以上になると福祉券が毎年一人当たり3,000円提供される。しかし、福祉券は1回に1,000円以上は使ってはいけないとの事で、非常に使いにくい。また、使える場所も限られており、女性の場合、美容室や買い物で使えるが、男性の場合、ほぼ使えず3,000円分を毎年使っていない方が多い。使用目的として最もありがたいのはタクシーであるが、タクシーでは使用できないと聞いている。福祉の方と連動した政策が始まろうとしているのはよくわかっているため、使いにくいものを使いやすくし、使ってもらうことで、事業に参加している実感をもってもらい、自覚を持つことで状況が変わるということを認識していただけるよう努めてほしい。

○川端座長

福祉券は、上限3,000円でタクシーでも使用できるはずである。

○菅野委員

P58に前計画の課題があるが、課題は解決していかないと進展していないと感じる。前に、新幹線市街地線の利用者が少ないため運行経路を変更したが、いろいろな事情により元の運行経路に戻った。その後全く議論が進展しておらず、進展していないことが非常に気になる。課題を解決できないならば、運行をやめるのも1つの取組だと思う。

路線バスが自宅付近を運行するなら利用するという意見があるため、自治振興会を通して意見を聞き、運行経路の検討をしてほしい。意見を聞いた上で、まず1年間試運行し、利用者が少なければ運行を廃止するというものもある。

路線バス等の運行経路についてより具体的で、現実的なものにしていくために利用者の意見をより聞く必要があると思う。スピード感をもって利用者の意見を聞ける場を設け、意見を反映していく必要があると思う。利用者の意見を聞く時は、地元の団体を利用することが一番効率的であると思うため、積極的に利用してほしい。目標値に向かい徐々に進んでいけば良いと思うため、地道に活動を行ってほしい。

○大上戸副会長

村椿地区で路線バスの延伸を要望されたため、地区で1年間にバスに乗る可能性があるか聞くと、全員が乗らないと答えた。なぜ延伸を求めるのかと聞くと「運行があれば乗るかも」という程度であった。路線が赤字であるのにその程度であれば延伸を要請できない。

自治振興会で利用者の意見を聞く機会を作っても、「あればのるかも」という意見だけだということであれば、協議していくのは我々、この協議会であると思う。

○下石委員

この会議の公募委員になって3回目だが、どのような趣旨でこの会議があるのかということがようやく理解できた。委員の出席と承認がない限り、支援金、補助金の書類申請ができ

ないため、非常に大事な会議なのだという事はわかった。

しかしながら、協議ということの意味を逸脱していると思っており、書面では協議はできない。以前の協議会で出た意見や議論が、なくなったのか続いているのかわからない状況で毎回同じことを繰り返しているように感じる。

より、地域レベルの人が集まってできる会議が別で必要だと思う。その会議の内容を各立場の委員が協議しなければ地域の問題は解決せず、上積みされるだけだと思う。

○川端座長

決して意見が通らないということではなく、いただいた意見は計画書に反映はしていく。

また、本協議会の前に作業部会を開催し、議題を検討している。そして書面でいただいた部分を議題に盛り込むことはしており、協議したことが何も進展していない訳ではないと思うため、今後も積極的に参加していただけるとありがたい。

○下石委員

私より先に何年も本協議会に出席している方からも進展がないという意見がある。課題について協議し変えていく体制づくりがこの協議会では無理な場合、違う団体を作り、この協議会にあげてもらうシステムに変える方が、ステップが踏めるのではないかと感じる。

○川端座長

私が作業部会の部会長もしており、本協議会の下部組織として協議内容を検討し整理したものを本協議会で検討を進めており、言われるような組織体制となっている。

本協議会は黒部市公共交通戦略推進協議会であり、市の公共交通という部分では狭い分野かもしれないが、この分野に関しての話し合いをしている。その協議に様々なことが関連してきており、それをすべてこの協議会で決めることは難しいと思う。よって、公共交通に関する部分での提案をいただいて、素案の中に盛り込むという形がこの協議会の進め方だと思う。

○下石委員

進め方は理解した。ただし、今年度末の時点で、これまで話し合ってきた内容がどの程度進んでいるのか、それとも、進んでないのかもわからない状況が続くのは、納得できない。今年はこの内容を中心に進めるなど協議内容を絞る作業すらないことを疑問に思う。

○川端座長

作業部会でまとめていく中では、皆様からいただいた意見をまとめて、手順を踏んで黒部市地域公共交通計画（素案）という形にできたと思う。

○事務局

利用促進が進まない中で、委員の方にご意見いただいていることに対し、しっかりお答えできていない部分もあると思うため、いただいている意見については来年度に、前計画の検証結果を用い、お答えさせていただきたい。

○川端座長

ほかにご意見が無ければ素案の通り、可決するという事で承認をすることでよろしいでしょうか。拍手で承認をいただければと思います。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認をいただいたということで、今後パブコメをかけ、パブコメによる修正対応が必要であれば対応する。特に大きな変更がない限りは、私と市長にご一任をいただき対応させていただきたいと思う。

また、パブコメの結果については改めて委員の皆さんにお知らせする。

閉会（事務局）

●大上戸副会長

本日は長時間にわたり協議いただき誠にありがとうございます。また、川端座長には円滑な運営をいただき誠にありがとうございました。冒頭の挨拶にございました、能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の 1 日も早い復興と復旧をお祈り申し上げます。

本日、協議いただいた黒部市地域公共交通計画については、様々なご意見があるかと思うが、黒部市にふさわしい公共交通のあり方を考えるという点で、ここに全員の方が一致しているものと思っている。地域の関係者の連携のもと、来年度以降、本計画が順調に進捗することを願い、閉会にあたっての挨拶に代えさせていただく。

●事務局

以上をもって第 41 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会とする。本日は、誠にありがとうございました。

以 上